

学校経営のポイント

“読書の秋”に「短時間快適読書」のスタートを

若井 彌一

「読書の秋」と言っても(聞いても)、「何,それ?」という心境で、気ぜわしい日々を送っている学校教育関係者が圧倒的に多いであろうと思うと、空々しい感じさえする上記のテーマを掲げて述べるのが適切か、迷いもする。

しかし、あえて今回は、このテーマでご了解を願う次第である。

相次いで教育月刊誌の「休刊」事態

今回のテーマで書いておきたいと決心したのは、長年に及んで楽しみにしていた『悠+』(「はるかプラス」と読む。ぎょうせい発行の教育月刊誌)が、この秋、10月号をもって「休刊」となることを社告により知って、驚きとともに、非常に大切な友人が宝物を失ってしまったような衝撃を受けたことによる。

これに先立って、『学校マネジメント』(旧名称『学校運営研究』明治図書発行)もすでに(平成20年3月号を最後に)「休刊」に追い込まれており、教育関係教養誌や専門誌の発売(購読)部数が落ち込んできているのを感じていたが、教育関係教養誌として好評を博していたと思われる『悠+』の休刊予告は、まったく予想だにしない寝耳に水のような出来事であった。

教育月刊誌も数が多いので、ある程度の自然淘汰(natural selection)はやむを得ない一面もあるが、これら2誌に限らず、国内有数の雑誌が次々と姿を消すことは、教育界にとってもやはり大きな損失・痛手である。

もっとも「読書の必要性」とか「読書の効用」などは、他人から説明されるまでもなく、「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)の趣旨を踏まえて、児童・生徒に読書指導

をするにあたって、繰り返し説明し、読書を促しておられるのであろうから結局は、「読書の枢要 分かっちゃいるが 明日の仕事の 準備先」という事情が、読書妨げの最大の要因ではないかという推測はつく。

義務感覚でなくエンタメ気分で読書を

必要であると自覚しながらも、「ゆっくりと時間をかけて読書している精神的ゆとりは無い」との思いは、おそらく大多数の教育関係者の共通点かもしれない。

しかし、せめて30分は確保できないか。20分でも、さらには10分でもよい。それぞれの多忙さ事情も異なっているのだから、生活実態に合わせて、可能な、というよりも無理なく継続できる時間を見つけ出し、精神的に快適な読書を実践するようにしたい。

「無理なく継続できる時間」という表現をしたけれども、読書の継続は、義務感覚で長く(長期間)は無理である。

自分のもっとも興味のもてる内容の、気晴らし感覚の読書でよい。心が晴れて楽しいと感じ、「そうか、わかった!」と得をした気分になったり、「なるほど、こんなに崇高な生き方や決意の仕方もあるのか」と教えられて感動したり、自分の精神面が豊かになっていくことを実感できれば、読書は継続可能である。

もちろん 明日の授業を充実させたいとの思いで、順序を追って継続する読書も有意義である。他人の目や評価に過敏になる必要はない。ぜひとも「短時間快適読書」スタートの秋にしたい。

(わかい・やいち=上越教育大学長)

本紙は<http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>でも掲載

●9月28日刊 予約受付中! 118のテーマごと見開き頁でポイント整理 判断に迷ったときの手引に!

『コンパクト 教育法規ハンドブック』

菱村 幸彦(国立教育政策研究所名誉所員)【編】

A5判 270頁 / 定価 2520円

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料 FAX 0120-462-488 をご利用ください(24時間受付・即日発送)